

がんばる「環境保健委員」



伊澤和男さん

矢中町在住。平成24年から同町環境保健委員に。雑がみりサイクルモデルステーションに協力。



佐藤武男さん

浜川町在住。同町の環境保健委員は平成21年から務める。雑がみりサイクルモデルステーションに協力。



鈴木順子さん

檜物町在住。平成13年から同町内の環境保健委員を務める。まちなかの清掃活動に尽力。



富岡賢治市長

市の環境保健事業に積極的に取り組んでいる環境保健委員や市民の活動を応援したいと考えている。

対談

また出してくるんですよね。
市長 鈴木さんのところは分別されていますか。
鈴木 うちの町内では年配の人も多いのですから…。きちんと分別するのが難しいという人も中にはいるんです。そんなときはあんまり言わないようにして私たちが分別しています。
市長 そういう陰ながらの努力には頭が下がります。今年度、各町内への防犯カメラの設置に合わせてごみステーションにも見守りカメラを設置します。注意喚起をしようというところで。希望したところにつけますよ、と各地域にお話ししたら、反対するところは一つもなかったんですよ。
鈴木 柳川町のごみの状況が悪かったと聞きましたが。
市長 そうです。柳川町の人のごみについて困っているという聞いたことがカメラ設置を考えるきっかけでした。

住みやすい地域のために

市長 分別などでもいろいろな工夫が必要かと思えますが、例えば雑がみ(※1)はどのように対応していますか。
伊澤 矢中地区は雑がみのモデルステーション(※2)とし

て去年から対応しています。紙袋にまとめて資源物の回収日に出してもらっています。燃やせるごみを少しでも減らせればと。うちの地区では雑がみが資源物として出されるようになってきたと実感しています。
市長 以前ウズベキスタンの大使が高崎を訪れた時にましがきれいだと驚いていました。70万もの人でにぎわう高崎まつりの後に全くごみが散らかっていないことに高崎警察署長も驚いていました。市民の皆さんが頑張ってくれているおかげだと思います。
伊澤 うちの町内でも運動会などのイベントの後は感心するくらいきれいです。ごみなどどこにもありません。
佐藤 長野地区では北高の生徒や地域の人たち、環境保健委員で草刈りなど、井野川サイクリングロード沿いをきれいにする活動をしています。
市長 草が伸び放題だと空き缶などが捨てられてしまうこともありますからね。
伊澤 きれいにしておくということはそのまちの価値も上がることになりまますから。住みたいまちって言うのはやっぱりきれいで清潔なところ



はまちの生活環境をきれいに保つお手伝いを各町内会の環境保健委員の皆さんにお願いしています。その仕事は、ごみステーションの管理やごみに関する相談の受け付け、町内清掃、環境パトロールの実施など広範囲にわたります。今回は3人の環境保健委員の皆さんをお迎えして、その取り組みについてお話しいただきながら、きれいで住みやすいまちづくりについて考えます。

まちをきれいに環境保健委員の活動

市長 私はまちなかに住んでいて毎朝散歩をしているんです。いつも、たくさん出されているごみを環境保健委員や町内の皆さんがしっかりと分別していただいているのを見るたびに、本当に頭の下がる思いがしています。社会を陰ながら支えていただいているんだなあ。
伊澤 環境保健委員ってどんな仕事をしているかあまり知られていないんですよ。
市長 そうですね。ごみの問題、環境問題を考える上では皆さんの活動についても多くの市民の皆さんに知ってもらえるのは大事なことです。皆さんの取り組みを思うといい加減にごみを捨てられませんか。
地域の「ごみ事情」は…
市長 鈴木さんの地区は檜物町ですが、ごみの状況はいかがですか。
鈴木 うちの町内のごみの量は少ない方だと思います。古くからの住人が多いものですが、自分のところだけでなく結構遠くまでお掃除してくれる人がいるんです。

すよね。
市長 皆で意識して取り組みばきれいになるんですよ。
ごみの量が多い群馬県地域で取り組むひと工夫
市長 群馬県は全国的に見てもごみの量が多いといわれています。ごみを減らすためには例えば生ごみの水切りをする、過剰包装を断る、飲食店で注文したものを食べ切るようにするなど、皆で考えなければいけませんね。皆さんのところで何か工夫していることはありますか。
佐藤 長野地区では、ごみの問題について知ってもらうため、市からの情報を基に分別方法などを載せた手作りの案内を年4回発行しています。
市長 周知は回覧ですか。
佐藤 回覧だと読んでもらえないこともあるので地区の全世帯に配っています。配布物はマグネットで冷蔵庫などにも貼りやすい大きさにしています。高齢者にも見やすいように文字を大きくして、ごみの出し方なども細かく載せています。そうしたらきちんとしてくれるようになるような効果が出てきたんですよ。

※1 雑がみ 代表的なものはティッシュの箱や菓子などの空き箱、紙袋、包装紙、封筒など

※2 雑がみりサイクルモデルステーション 環境保健委員が中心となって雑がみりサイクルの周知と分別に取り組むモデル地区。平成26年度から始まった取り組みで、現在は市内16町内39ステーションが参加

市長 自分の地域を良くしたいという意識が高いんですね。マンションも多いですよ。
鈴木 マンションは独自に管理してもらっています。
市長 佐藤さんは浜川町ですか。
佐藤 はい。うちの長野地区は浜川を含め10町内あって1周すると13キロくらいになります。朝6時から10時くらいまでぐるっと見回っています。地域でも「うるさいおじさん」で通っています(笑)。でも環境保健委員になっていろいろな人との交流ができて良かったですね。
市長 伊澤さんのところはいかがですか。
伊澤 ごく一部の人だと思えますが、生ごみと一緒に缶を入れて出す、飲みかけのままのペットボトルを出すというケースが見受けられます。
市長 「誰かがやってくれるから」と思ってしまうのでしょうか。
伊澤 本来ならルール違反のごみは「違反シール」を貼って置いておくのですが…。置いておくにも限度があります。きれいでありませんし。
佐藤 毎回片付けてしまう